

A photograph showing a harbor scene. In the foreground, a white motorboat is on the water. To the right, there is a concrete pier or breakwater structure. In the background, a hill with some buildings and flags is visible under a cloudy sky.

思いを込めて！

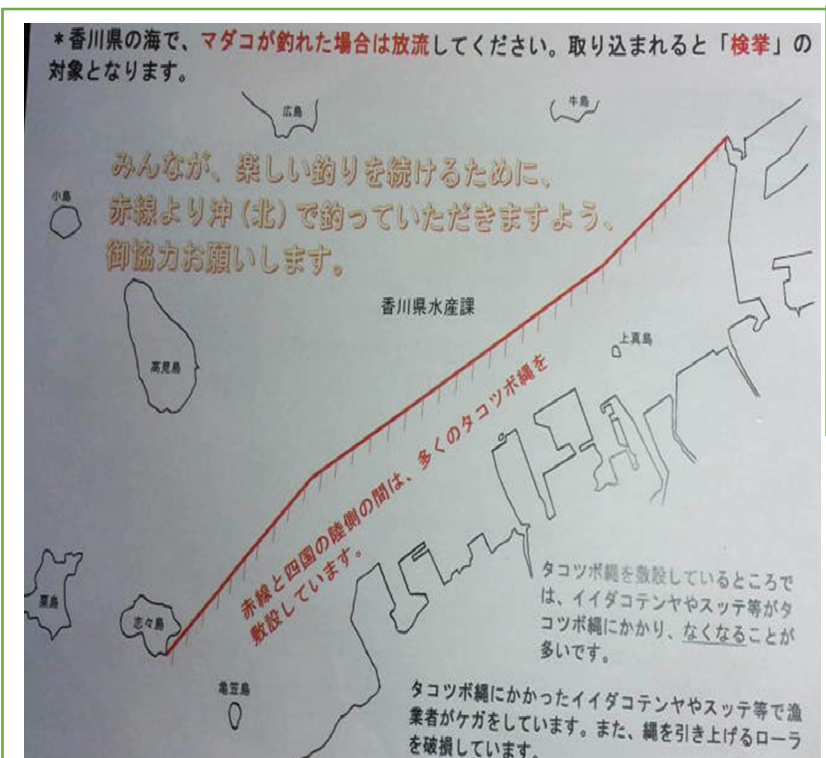
少し前の出来事だが釣人に「もう、あんたんとこの会は放流を止めたんやろう?」と言われた。

め東讃、津田でのキジハタ、真鯛の放流、高松、庵治近辺でもキジハタ、真鯛の放流、丸亀本島辺、多度津沖、三豊粟島付近でも同じくキジハタ、真鯛の放流をした経緯がある。此れからは小豆島に協力をしながら、STKでは独自の場所を選定し以前のような放流も実行したいと考えさせられた。大勢の方の協力に支えられ放流が行えている事を疎かにしてはいけない。此れからも初心を忘れずに実行しなければ成らないのである。

最近では中讃沖のイダコ釣り
が問題に成っている。遊漁者のイ
ダコテンヤで漁師が怪我をする
被害が相次いでいる。遊漁者も守
るべきルールやマナーを考えなけ

タコツボ網にかかったイダコテンヤやスツテ等で漁業者がケガをしています。また、網を引き上げるローラを破損しています。

イイダコの釣場、オオダコ釣り禁止のパンフレット
(香川県水産課)



内海地区漁場利用協定締結から一年！

平成二十七年七月一日に小豆島において内海地区漁場利用協定（UFC）が締結されてから一年余りが過ぎた。

この内海地区での締結、行事にはSTK会員の多大な協力にて無事に今日を迎えた事に関係者から感謝の言葉を頂いた。

【STK会員の皆様へ協力有難うございました】

初めての試みであり三県の締結により協力上の仕事に苦悩することも度々ありました。全国でも初めての香川県、岡山県、兵庫県の三県での漁場利用協定締結をしたとの事で注目となり各他県の来賓者、メディアにも来ていただき華々しく当初八十名程の協力会員でのスタートを切った。今では五五〇名の協力会員と共に運営。昨年は協力会員の協力会費で二回の真鯛、キジハタの放流を行った。今年も協力会員と漁業者と親睦を図る盛大なイベントを実施した。

香川県庁水産課及び小豆島町役場、締結団体の協力を得て五月二十八日に早朝六時から釣大会が行われた。授賞式では小豆島町長から賞品が手渡された。大会後はうどん、そうめん、豪華弁当での昼食。その後、待機している活魚車から真鯛、キジハタ、ヒラメ、タケノコメバルの稚魚を各艇に積み込み放流場所に向かった。コトブキからの放流合図で一斉に海上での稚魚放流を行った。参加者は沢山の協賛者からの小豆島のお土産をいただきイベントを終了した。

今後はSTKの発展と共にUFCの土台ができたので何より放流を滞らせない、ルール、マナーの守れる漁場利用協定協議会の向上を目指します。

また、全国の漁場利用協定締結の手法と成るようSTK、UFC、協賛していただける方々と力を合わせて行く所存です。協力を宜しく願います。



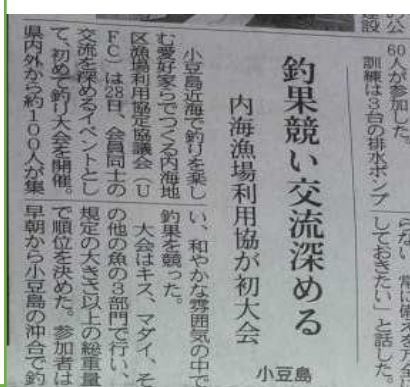
香川県水産課艇ことぶきの合図で放流



STK 会員も放流 ➡



小豆島町長も
コトブキで放流



釣り上げた魚の検量を受ける
参加者＝小豆島町苗羽

四国新聞より

漁業者 によりよい関係へ 釣り愛好家

マレシジャーの普及に伴い、漁場周辺で地元漁師と釣り愛好家のトラブルが相次ぐ中、小豆島町の漁協と香川・岡山・兵庫3県の漁業者が、1日、漁場利用協定を締結した。トラブルの未然防止はもちろんで、水産資源の確保を目指すし、加入者の釣料金を集めて、稚魚放流にも取り組む。同様の協定は全国初とい

小豆島東部漁協はマダイが主で釣れ、シーズンの冬場には数百年の伝統があるが、近頃は、十数年の連続で漁場の占拠や漁具の破壊、水産資源の枯渇が問題となり、漁業者との良好な関係を構築しようとする、NPO法人「小豆島内遊漁船利用団体協議会」事務局・善達寺町が、会には稚魚生産経費や加入者

に配布するステッカー作製などに活用する。港での給餌や島内観光の割引など、メリットも整えるという。

小豆島町内のホテル1日、調印式があり、4団体の代表が協定書に署名し、森田は「漁業者と遊漁者は互いに押し、豊かな漁場をつくりたい」と話した。

県）。締結時は約80人が参加した。

協定によると、小豆島東部海城の一部で午後3時から翌午前6時まで遊漁船が3時間以上停泊し、遊漁者が設置した漁網などの遊漁船の船泊を禁止した。一般遊漁船は、年1万5千円、遊漁船業者は同10万円、遊漁船業者は同千円を支払い、協定協議

全国初の漁場利用協定

内海漁協と3県の団体

稚魚放流協力金を募る



漁場利用協定に調印する内海漁協の代表（左）と遊漁者の代表（右）小豆島町内



四国新聞より

- ◆ 平成二十七年四月
香川県釣り団体協議会総会に出席
- ◆ 平成二十七年四月
香川県地区小型船安全協会総会に出席
- ◆ 平成二十七年六月
STK理事会
- ◆ 平成二十七年六月十六日
高松美山ホテルで第二回STK総会を開催
- ◆ 平成二十七年六月
小豆島で漁場利用協定締結団
- ◆ 平成二十七年七月一日
体としての打合せ
- ◆ 平成二十七年七月一日
小豆島内海地区漁場利用協定締結団体として出席
- ◆ 平成二十七年八月
STK理事会
- ◆ 平成二十七年十月
STK理事会
- ◆ 平成二十七年十一月
UFCとSTK共同稚魚放流
- ◆ 平成二十七年十二月
UFCと協力稚魚放流

- ◆ 平成二十八年一月
STK理事会
- ◆ 平成二十八年一月
STK美山ホテルで新年会
- ◆ 平成二十八年三月
STK理事会

※事業として青少年育成親子釣り大会を予定していたが悪天候のため中止に成った。

釣り情報とは？

今年も瀬戸芸と共に釣りで賑わっている瀬戸内海だが毎年、釣果が悪く魚が減少している兆しに危機感を感じている者も少なく無いだろう。

捕る漁業から作る漁業に代わっていった時代々作る漁業の経費が合わなくなり養殖業者が減る一方で廃業者が増えている。

香川県でも海苔の養殖業者が廃業に追い込まれている。真鯛、フグの養魚者も同じである。愛媛県でも全く同じ状況だ。

一面に有った養殖小割が半分以下に成っている。「漁業者曰く餌代が高くてやっておれない。歳のいった者じゃ今更どうしようも無い」と・・・

苦心の末、ブランド名をつけてからうじて養殖鯛に力を入れているのが伺える。

ハマチ、ブリ、タイ、フグ、海苔とブランドものにして様々な取組をしているようだ。

海の産物、農作物もまた、同様にブランドものだ。外国からの輸入物におされ国産の作物は自分で消費するだけの様になった様子が伺える。

漁業者、「釣人はちょっと釣れたら連絡しおうて皆で寄って集っておるだけ釣ってしまう」・・・

釣り人、「漁師はあれ程網を引き回して魚を捕ってしまう。魚やっておらん様に成ってしまう」・・・

どうしたもんじゃろのう